

改訂の序

「この薬は、前の薬とどこが違うの?」と、患者さんから聞かれて返答に困ったことはないでしょうか。似たような薬がたくさんある中でなぜこの薬が選ばれたのか、なぜ別の似た薬ではダメだったのか、その理由をきちんと説明するのはとても難しいことです。ひとつひとつの薬の作用は知っていても、それが今ある薬全体の中でどういった位置づけにあるのかを把握していなければ、どのように使い分ければ良いかはわからないからです。

我々は車やパソコンを買うとき、似たような製品の性能を比べて、燃費はどちらが良い、処理速度はどちらが速い、といったことを調べた上で選びます。このように似たものを比較して違いを知ることは、そのものを深く理解するために必要なプロセスです。薬も個々の作用だけでなく、似たもの同士を比較し、期待できる効果や負うべき副作用や相互作用のリスク、使い勝手、値段など、様々な面からどのような違いがあるかを知ることが必要です。

本書は、ブログ「お薬Q & A ~ Fizz Drug Information」をもとに2017年に発行された『薬の比較と使い分け100』を、今の現場でより役立つよう全面的に新しく書き直すとともに、新薬を中心に30項目を新規で書き下ろしたものです。忙しい日常業務の合間に、新卒の薬剤師や出産・育児などでブランクのある薬剤師でも無理なく読むことができる手軽さはそのままに、最新の情報を反映させつつ参考文献の数は2倍以上の約1,600本に増やし、より実用的で精度の高い内容になるよう丁寧にブラッシュアップしました。

優秀な車の販売員は、車の性能をただ羅列するのではなく、他の車ではなくこの車を買ったときに人生がどう変わるかというストーリーを語ります。薬剤師も薬の情報を羅列するだけではなく、薬を飲んだその人の人生がどう良くなるのかを考えて服薬指導や処方提案をしていく必要があります。本書が「薬の使い分け」を理解するための足掛かりとして、人工知能(AI)やSNSの情報に溢れる現代社会の薬剤師にとっての礎としてお役に立てることを願っています。

最後に、本書の執筆にあたり、2年近い執筆期間を支えてくださった編集担当の秋本佳子さま、山村康高さま、デザイン担当の鳥山拓朗さまをはじめ、羊土社編集部の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

2026年6月

児島 悠史

